

先週の回答



「ママ、酔っ払ってますね」
 「ヒック、悪いか」
 「いえ、めずらしいから・・・」
 「女は酒を飲んじやいけないって法律でもあんの！」
 「いえ」(身を引く)
 「久しぶりのクラス会だったのよ。みんなおばーちゃんになっちゃって、昔と変わらない若さを保ってたのはあつだけ。ヒック」
 「・・・」(信じられない)
 「久しぶりに昔話に花が咲いたのよ。ヒック」
 「どんな話ですか？」
 「ききたい？」
 「はい」(別に)

「ママが、モテモテだったって話よ、ヒック」
 「まさか」
 「つて、どーゆー意味！ヒック。ママはねー、大金持ちの御曹司にヨットのセーリングにさそわれたり、苦学しながらアルバイトでためたおカネでデート申し込まれたり、将来大学教授になる優秀な学者の卵にお食事さそわれたり、ヒック、体やすめるヒマもないくらいだったの知らないの！」(ドンとテーブルを叩く)
 「はじめて聞きました」
 「砂糖にたかるアリみたいだったわねえー、男なんて」
 「・・・」(塩に集まるゴキブリじゃないの・・・)

「塩っていえば、潮時があるのよねえ・・・人生には。ううう」
 「・・・」(泣き上戸なんだ)
 「ある時期になると潮が引くように、男たちがまわりからいなくなっちゃったの・・・ううう・・・何でなの！」(ドン)
 「知りません」
 「そんな時に会ったのよ・・・ううう」
 「パパに？」
 「そー」
 「まさに早天慈雨ですね」
 「早天慈雨？・・・たしかにあたしは日照りつづきであせっていたけど、降ってきたのは慈雨じゃないわね、あれは。慈雨って恵の雨でしょ」
 「そうです」
 「愚にもつかない男が降ってきたのよ、愚雨」
 「パパも言ってたよ『わしは早天愚女にあつた』つて」
 「あたしを悪女にするの！」(ドン)
 「ヒック」



